

---

## 【特集】 関東大震災90年

——朝鮮人虐殺をめぐる研究・運動の歴史と現在 (1)

---

### 特集によせて

東日本大震災は、自然災害の衝撃の大きさを改めて現代社会に問い直す契機になったばかりでなく、原発事故という未曾有の人的災害としての核災害を生み出した。そのため、「3・11」以降を「震災・核災害の時代」（歴史学研究会編『震災・核災害の時代と歴史学』青木書店、2012年）と名付けるなど、さまざまな学問領域で「震災・核災害」に関する諸問題の歴史的背景の検証の重要性が提起されている。『大原社会問題研究所雑誌』でも、これまで多くの特集が組まれており（「大震災・原発事故と日本社会」〈647・648号〉2012年9月、「原発と社会運動・労働運動」〈658号〉2013年8月、〈661号〉2013年11月、「ポスト震災を生き抜く」〈659・660号〉2013年9月、「震災復興の現状と課題—陸前高田の場合」〈665号〉2014年3月）、今後も「震災・核災害の時代」をテーマとした論考が積み重ねられていくことが予想される。歴史研究の現場においてもテーマ化が進んでおり、佐倉の国立歴史民俗博物館では、「歴史に見る震災」という企画展示が2014年3月11日～5月6日まで行われたばかりである。

震災をめぐる、歴史的検証の観点から注目されてきた論点は何であろうか。藤野裕子は、災害時・災害後の公権力のあり方、災害時・災害後における公共性・共同性、原発に代表される人災の責任、国家による情報統制の問題と真相究明、といった点を挙げるとともに、現在において周辺化されている重大な論点があると指摘する。それは、災害時における「人災」としての社会的排斥・暴力の問題と、震災後の支援活動における民族差別の問題である。昨年は「関東大震災90年」の年であったが、上記したような論点に関し、今こそ向き合うべき重要な論点がここに凝縮されている。実際、関東大震災における「人災」として発生した朝鮮人大量虐殺は、公権力の率先、公権力による事態の隠蔽・責任回避、災害時の共同性、といった論点について深刻な問題提起を現在に投げかける（藤野裕子「関東大震災時の朝鮮人虐殺と向き合う—災害時の公権力と共同性をめぐって」『震災・核災害の時代と歴史学』前掲書）。

関東大震災直後、公権力は率先してデマを流布し、内乱の事実がないにもかかわらず戒厳令を施行して、まるで「戦時」のように、無実の朝鮮人・中国人・一部の日本人を虐殺し、しかも事後的に責任の回避、真相の隠蔽を図った。また、軍隊・警察とともに虐殺の主体となった自警団の暴力は「災害時の共同性」をめぐる矛盾を浮き彫りにし、日本人下層労働者がその担い手でもあった事実は、階級を超えた日本人の民族差別（朝鮮人・中国人への）の所在を明らかにする。

朝鮮人虐殺に関する真相究明への道のりは困難なものであった。被害者である朝鮮人による真相究明への動きは震災後から常に存在したが、植民地支配の圧政下ではそれが大きな動きに結びつくことは不可能だったからである。しかし、真相の究明と日本国家の責任の追及は被害者にとって長年期待されたことであり、1960年代になってようやく、被害を受けた人々の証言の収集などを中心に行われるようになった（例えば、朝鮮大学校編・刊『関東大震災に於ける朝鮮人虐殺の真相と実態』1963年など）。

同じ頃、研究者の中からもようやく官憲資料の発掘が行われるようになり、歴史研究も本格化していった。1970年代・80年代以降になると、関東各地で隠された歴史的事実の発掘と慰霊・追悼が幅広く行われるようになり、90年代以降は関係資料の整理・集成も行われた。こうした研究の蓄積や地域を基盤とした運動の広がりを経て、「関東大震災朝鮮人虐殺の国家責任を問う会」が2010年に結成されるに至ったのである。震災後、約90年後という長い歳月を経てである。

2013年に「関東大震災90年」を迎え、「3・11」以降、教訓とされるべき朝鮮人虐殺の歴史はこうした人々の努力によって徐々に解決されてきているように見える。しかし、公権力や社会において、こうした努力が受け止められ、浸透してきたかといえ、むしろその逆である。公権力のレベルでは、日本政府は未だ犠牲者・遺族への謝罪と補償はおろか、国家の責任の所在すら認めずはなく、2003年8月、日本弁護士連合会が日本政府に責任を認め謝罪し真相を調査するように勧告しても日本政府は無視した。自治体レベルでは、2000年の石原元東京都知事の「三国人発言」のような、むしろ関東大震災時の軍による虐殺を想起させる公人の発言がなされ、近年は教育現場において東京都高校日本史の副読本「江戸から東京へ」や横浜市中学生向けの副読本「わかるヨコハマ」において、朝鮮人虐殺の記述を変更するなど、歴史修正主義の動きが進んでいる。また、東日本大震災の直後においてさえ、宮城県が東北朝鮮学校への給水車の手配などを拒絶している。

社会的にも、関東大震災時の朝鮮人虐殺を肯定するような趣旨の本が出版され、各地で「朝鮮人を殺せ」といった種のヘイトスピーチが公然と行われる時代になった。このように、在日朝鮮人への差別意識とその行動への結びつきが「官民一体」でむしろ高まりつつあるのが現在であり、こうした時代であるからこそ、「官民一体」で行われた朝鮮人虐殺について、改めて歴史的に向き合う必要があるのではないだろうか。

研究・運動レベルにおいても、朝鮮人虐殺の問題をきちんと受け止めてきたとはいえない面があり、課題は山積している。大原社会問題研究所でも関東大震災時の虐殺については、『大原社会問題研究所資料室報』の時代に、1968年3月号（138号）で「亀戸事件」が取り上げられたのみである。労働・社会運動の歴史的検証を行ってきた大原社研において、関東大震災90年に民族虐殺の問題がいかにかに研究上軽視されてきたかに改めて向き合う意義も大きいと考えるところである。

以上の問題意識に基づき、本特集では三つの視座を設定して朝鮮人虐殺をめぐる問題の検証を行う。第一に、研究史・運動史の再検証である。今まで朝鮮人虐殺の問題をめぐるのは、虐殺対象（民族別に虐殺の研究）、虐殺主体・責任、流言の発生要因・虐殺の推移、日本近代史・世界史における位置、地域別の史実の掘り起こし、調査・慰霊・追悼、在日朝鮮人史・朝鮮史における位置、といった論点をめぐって研究が行われ、こうした研究は日本の国家責任と民衆責任を求める運動とも深く連動してきた。こうした研究史・運動史上の成果と課題はどこにあるのか。本号においては、1960年代初頭から一貫して関東大震災に関する研究と運動をリードしてきた姜徳相氏にこの点を考察していただいた（「一国史を超えて—関東大震災における朝鮮人虐殺研究の50年—」）。姜徳相氏が在日朝鮮人の立場から、日本の関東大震災における朝鮮人虐殺に関する研究を行い、論争を深めつつ、日本の研究・運動とのあいだで抱えてきた違和感・課題の所在と、虐殺を「戦争状態の伏流した植民地支配」の延長線上に位置づけるべきことを論じた必読の論考である。山本すみ子氏の「横浜における関東大震災時朝鮮人虐殺」は、他の地域と比べ、「誰が」「どこで」「誰に」「どのよ

うにして」虐殺されたのかについて、ほとんどわかっていない横浜において、どのような資料を用い、その様相が明らかにされてきたのか、そして現在の課題がどこにあるのかがよくわかる。次号は、千葉を中心とした「地域における追悼・調査の活動と現状」に関する論考が続く予定である。

第二に、現在の日本社会における朝鮮人虐殺の受け止めをめぐる諸課題の提示である。本号においては、鈴木敏夫氏の論考、「関東大震災をめぐる教育現場の歴史修正主義」において、教科書や副読本など、教育現場で使用する教材で朝鮮人虐殺をめぐるどのような記述への介入が行われているかが考察されている。

第三に、研究における新たな視点である。次号では、金富子氏の「レイピスト神話」と朝鮮人虐殺」が掲載される予定である。本特集が日本の「震災・核災害」「植民地支配」「民族差別」をめぐる研究や歴史認識のありようをめぐる議論を深化させる契機となれば幸いである。

なお、最後にすべてを網羅することはできないが、関東大震災と朝鮮人虐殺に関する代表的な文献一覧を挙げておきたい。さまざまな文献をもとに作成したが、とくに田中正敬・専修大学関東大震災史研究会編『地域に学ぶ関東大震災』（日本経済評論社、2012年）、在日韓人歴史資料館『第7回企画展「関東大震災時の朝鮮人虐殺と国家・民衆」資料と解説』（2010年）を参照させていただいた。

(慎 蒼 宇)

#### 【文献一覧】（資料集成や雑誌における特集も含む）

- ・金秉稷編著『関東震災白色テロルの真相』朝鮮民主文化団体総連盟、1947年。
- ・吉河光貞『関東大震災の治安回顧』法務府特別審査局、1949年。
- ・斉藤秀夫「関東大震災と朝鮮人さわざ」『歴史評論』99号、1958年11月。
- ・姜徳相・琴秉洞編『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』みすず書房、1963年。
- ・朝鮮大学校編・刊『関東大震災に於ける朝鮮人虐殺の真相と実態』1963年。
- ・姜徳相「大震災下の朝鮮人被害者数の調査」『労働運動史研究』37号、1963年7月。
- ・姜徳相「関東大震災における朝鮮人虐殺の実態」『歴史学研究』278号、1963年9月。
- ・姜徳相「つくりだされた流言」『歴史評論』157号、1963年9月。
- ・松尾尊允「関東大震災下の朝鮮人虐殺事件（上・下）」『思想』471号、1963年9月、同476号、1964年2月。
- ・越中谷利一「関東大震災の思い出」（『越中谷利一著作集』東海繊維経済新聞社、1971年）。
- ・日朝協会豊島支部編・刊『民族の棘 関東大震災と朝鮮人虐殺の記録』1973年。
- ・「特集 関東大震災50周年」『歴史評論』281号、1973年。
- ・姜徳相『関東大震災』中公新書、1975年。
- ・関東大震災50周年朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会編『歴史の真実—関東大震災と朝鮮・人虐殺』現代史出版会、1975年。
- ・朴慶植編『在日朝鮮人関係資料集成 第1巻』三一書房、1975年。
- ・大江志乃夫『戒厳令』岩波新書、1978年。
- ・ねずまさし「横浜の虐殺慰霊碑」『季刊三千里』21号、1980年2月。
- ・姜徳相「関東大震災—もう一つの虐殺—習志野騎兵連隊における朝鮮人虐殺」『季刊三千里』23号、1980年8月。
- ・田原洋『関東大震災と王希天事件』三一書房、1982年。
- ・千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会『いわれなく殺された人々』青木書店、1983年。

- ・平形千恵子・大竹米子「地域の掘り起こしと民衆の歴史意識」(『歴史地理教育』356, 1983年9月)。
- ・9・1 関東大震災虐殺事件を考える会『抗はぬ朝鮮人に打ち落とす鳶口の血に夕陽照りにき』1983年。
- ・「特集 関東大震災」『歴史地理教育』356, 1983年9月。
- ・「特集 関東大震災の時代」『季刊 三千里』36号, 1983年11月。
- ・関東大震災60周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会編『かくされていた歴史—関東大震災と埼玉の朝鮮人虐殺事件—増補保存版』同会, 1987年。
- ・斐昭『写真報告 関東大震災朝鮮人虐殺』影書房, 1988年。
- ・琴秉洞編『関東大震災虐殺問題児童証言史料』緑陰書房, 1989年。
- ・琴秉洞編『関東大震災虐殺問題関係史料 Ⅱ 朝鮮人虐殺関連官庁史料』緑陰書房, 1991年)。
- ・仁木ふみ子『関東大震災 中国人大虐殺』岩波ブックレット, 1991年。
- ・関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会『風よ 鳳仙花の歌をはこべ』教育史料出版会, 1992年。
- ・仁木ふみ子『震災下の中国人虐殺』青木書店, 1993年。
- ・李七斗編『関東大震災横浜記録』在日大韓民国居留民団神奈川県本部, 1993年。
- ・「特集 関東大震災」『歴史地理教育』506号, 1993年8月。
- ・「特集 関東大震災と朝鮮人虐殺事件」『歴史評論』521号, 1993年9月。
- ・関東大震災70周年記念行事実行委員会編『この歴史永遠に忘れず—70周年記念集会の記録』日本経済評論社, 1994年。
- ・猪上輝雄『関東大震災 藤岡での朝鮮人虐殺事件』自費出版, 1995年。
- ・琴秉洞編『関東大震災朝鮮人虐殺問題関連史料 朝鮮人虐殺に関する植民地朝鮮の反応』緑陰書房, 1996年。
- ・松尾章一監修, 田中正敬・逢坂英明編『関東大震災 政府陸海軍関係史料Ⅲ巻』日本経済評論社, 1997年)。  
—平形千恵子・大竹米子編「Ⅰ巻 戒厳令関係史料」。  
—田崎公司・坂本昇編「Ⅱ巻 陸軍関係史料」
- ・仲間恵子「萱原白洞「関東大震災絵巻」に描かれた朝鮮人虐殺—震災下の民衆意識を探る」『大阪人権博物館紀要』1997年。
- ・伊藤泉美「関東大震災と横浜華僑社会」『横浜開港資料館紀要』15, 1997年。
- ・『江戸東京博物館調査報告書・第10集 関東大震災と安政江戸地震』2000年。
- ・廣井脩『流言とデマの社会学』文春新書, 2001年。
- ・上山和雄編『帝都と軍隊—地域と民衆の視点から』日本経済評論社, 2002年。
- ・山岸秀『関東大震災と朝鮮人虐殺』早稲田出版, 2002年。
- ・姜徳相『新版 関東大震災—虐殺の記憶』青丘文化社, 2003年。
- ・田中正敬「関東大震災はいかに伝えられたか」『歴史地理教育』2003年8月。
- ・松尾章一『関東大震災と戒厳令』吉川弘文館, 2003年。
- ・松尾尊允「関東大震災と救護警戒活動 東京憲兵隊(推定)」『論座』2003年11月号)。
- ・山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』創史社, 2003年。
- ・山田昭次編『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅴ 朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』全5巻(1~4, 別巻), 2004年。
- ・関東大震災80周年記念行事実行委員会編『世界史としての関東大震災—アジア・国家・民衆』日本経済評論社, 2004年。
- ・倉持順一「相愛会の活動と在日朝鮮人管理—関東大震災後の「内戦融和」・社会事業と関連して」『法政大学大学院紀要』53号, 2004年10月。
- ・田中正敬「関東大震災と朝鮮人の反応—その意識を考察する手がかりとして」(『人文科学年報<専修大学>』35号, 2005年)。
- ・丸本健次「関東大震災に対する植民地朝鮮での反応」『アジア民衆史研究』10号, 2005年7月。
- ・宮本正明「関東大震災に対する植民地朝鮮での反応」『アリラン通信』36号, 2006年3月。
- ・今井清一『横浜の関東大震災』雄隣堂, 2007年。

- ・ノ・ジュウン「関東大震災朝鮮人虐殺と日本の在日朝鮮人政策—日本政府と朝鮮総督府の「震災処理」過程を中心に」『在日朝鮮人史研究』37号, 2007年10月。
- ・今井清一監修, 仁木ふみ子編『史料集 関東大震災下の中国人虐殺事件』明石書店, 2008年。
- ・関東大震災85周年シンポジウム実行委員会『震災・戒厳令・虐殺—関東大震災85周年朝鮮人犠牲者追悼シンポジウム』三一書房, 2008年。
- ・藤井忠俊『在郷軍人会—良兵良民から赤紙・玉砕へ』岩波書店, 2009年。
- ・前沢哲也『帝国陸軍高崎連隊の近代史〈上巻〉明治大正編』雄山閣, 2009年。
- ・在日韓人歴史資料館『第7回企画展「関東大震災時の朝鮮人虐殺と国家・民衆」資料と解説』2010年。
- ・山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後—虐殺の国家責任と民衆責任』創史社, 2011年。
- ・鄭栄桓「在日朝鮮人の形成と『関東大虐殺』」趙景達編『植民地朝鮮』東京堂書店, 2011年。
- ・田中正敬・専修大学関東大震災史研究会編『地域に学ぶ関東大震災』日本経済評論社, 2012年。
- ・宮地忠彦『震災と治安秩序構想—大正デモクラシー期の「善導」主義をめぐる』クレイン, 2012年。
- ・藤野裕子「関東大震災時の朝鮮人虐殺と向き合う」(歴史学研究会編『震災・核災害の時代と歴史学』青木書店, 2012年。
- ・藤野裕子「刑事裁判記録マイクロフィルムの公開について—東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館所蔵『歴史評論』750, 2012年10月。
- ・高野宏康「関東大震災の記憶の継承と歴史教育」『歴史地理教育』805号, 2013年6月。
- ・「特集 関東大震災時の朝鮮人虐殺」『歴史地理教育』809号, 2013年9月。

## 法政大学大原社会問題研究所 ワーキング・ペーパー (旧調査研究報告) のご案内

ワーキング・ペーパーは、教育研究機関などには無料で配布しており、個人・一般の方には実費で頒布しています。入手ご希望の方・機関はご連絡ください。

No.	タイトル	発行年月
51	<b>最新刊</b> 棚橋小虎日記 (昭和十八年) (500円)	2014年1月
50	持続可能な地域における社会政策策定にむけての事例研究 Vol.2—繊維産業調査および公害病認定患者等調査報告— (500円)	2013年4月
49	電産中国関係資料 (300円)	2013年3月
48	協会の企業調査資料 (300円)	2012年4月
47	戦後ジャーナリスト職能運動の原点 (その2) (500円)	2012年3月
46	高齢者の在宅ケア— 一歩を進めるために (総括) (加齢過程における福祉研究会記録 補遺) (500円)	2011年10月

法政大学大原社会問題研究所 〒194-0298 東京都町田市相原町4342  
tel:042-783-2305 fax:042-783-2311 e-mail oharains@adm.hosei.ac.jp